一、先生の学問の偉大さ

偉大な学者の業績は、一般人には理解し難く、ために無関心に成り勝ちであります。日常生活に極めて関係の深い事柄であつても、それを知ろうとしません。私達が健康に幸福な生活を送り得るのも、学者の眞剣な偉大な研究に、俟つことが非常に多いのであります。

人類に大きな幸福をもたらした、偉大な学者に対しては、私達はその研究の大要を理解し、且つ、感謝の念を捧げることは、人間としての道であると信じます。このような偉大な学者が、縁遠い外国の学者でなく、日本のしかも我郷土の産んだ人である場合には、一層その感を深くするものであります。医学博士助川喜四郎先生こそ、この人であると信じます、先生の天然痘、狂水病等の偉大な研究によつて、実に多数の人命が保護され救済されているのであります。先生の研究の偉大さは、日本の代表的学者であり、赤痢菌の発見者として有名な、志賀潔博士の述べられている次の文によつて、明かであります。

「助川博士がこの劃期的の研究を、完成されるまでの努力と苦心は、眞に並々ならぬものであつた。防疫研究所の一室に在つて、何等学閥的背景も学界の支援もなく、先輩の支持指導も仰がずして、全く独力で孜々として研究を続けてゆかれたのである。二十年の研究の途中には、大正の大震災で研究室と設備の一切を烏有に帰した不幸等、多くの困難が横たわつて居た。博士は之等の難関を、性来の負けじ魂と不撓不屈の勇猛心とを以て突破し、遂に最後の栄冠をかち得られたのである。しかもこの世界的の偉業も、しばらくは世に認められず、一般の種痘の実施されるまでには、学界から無関心に取扱われ、果ては中傷的な議論まで受けて、幾多の世俗的苦労を経験せねばならなかつた。……世界に先んじて吾が助川博士によつて完成せられたことは、吾が学界の誇りとして永く伝える可きものである。……コツホの固型培地の成功にも比す可きものである。……吾が学界が虚心坦懐に助川博士の業績を認め、その一層の発展の為めに、協力せられん事を切望してやまない。」

助川先生は次のように述懐されております。

「研究の跡を振り返つてみると感無量なるものがある。自分としては劃期的研究を完成し「学に国境なしと雖も学者に祖国あり」と佛のパスツール氏の絶叫したことを思い浮べ、少くとも社会人類に幸福をもたらし得る世界的偉業と、心ひそかに考えもし、しばらくは世に認められずして、幾多の世俗的苦

労を経験せねばならなかつたのである。一般種痘を実施させるまでに、学界から無関心に取扱われ果ては中傷的論議まで受けたが、眞理は一つにして二つなしと言う信念で究理に努めたわけである。」

この二つの引用文を通して、私達は先生の強固な研究意欲、異常の努力、輝かしきその成果、偉大な業績であることを理解することが出来るのであります。昭和のジエンナーと呼ばれたのも尤と思います。

次ぎに研究を発表された当時、新聞紙上に載せられた記事の標題を書抜いて、重ねてその業績の偉大さを知つて頂きたいと思うのであります。

年月日	新聞名	その見出し
大正十五年三月二日	東京日々新聞	「世界に先んじて狂犬病原体を発見、七年間の苦心見ごと酬いられて、助川博士の大成功」
大正十五年八月二十日	東京夕刊新報	「医学界の曙光たる狂水病菌の新発見、予防注射液も従来のものに比べて、短潜伏期にも十分奏功する理想液、酬ひられた助川博士の苦心」
大正十五年十二月十五日	アサヒグラフ	「狂犬病原菌の発見、助川喜四郎博士」

昭和四年六月二十八日　報知新聞　「天然痘病原体の人工培養に見事に成功した神奈川県立衛生試験所の助川博士」

昭和七年三月二十五日　東京朝日新聞　「天然痘の病原体、助川博士が発見、世界学界に一大光明」

昭和七年六月十七日　時事新報　「世界的発見、天然痘病原体で両博士本家争ひ、片や北研の助川、片や阪大の谷口両氏、伝研で論争展開さる」

昭和七年六月十八日　いはらき　「土浦の助川博士対大阪医大谷口博士、天然痘病原体大論争、きのふ伝研集談会席上、論争実に三時間、谷口博士ダヂダヂ、傍聴の学者二百名」

昭和七年六月十八日　時事新報　「天然痘病原体の論争、傍聴の学者二百名、助川対谷口両博士一騎打ち、きのふ伝研で三時間に及ぶ、助川博士の勝利と慶大の田代博士語る」

昭和七年六月十九日　名古屋民報　「世界的発見、助川博士の功名、谷口博士との天然痘病原体の本家本元争ひ、伝研で両博士の大論争」

昭和十一年八月四日　いはらき　「新案注射による種痘の研究完成、痘病の助川博士苦心の

昭和十六年一月号　小学生の科学　光明、女性の腕痘痕解消」

昭和十六年六月十六日　いはらき　「世界に気を吐く日本人の大発明大発見」川端勇男

昭和十六年六月十七日　いはらき　「ここに日本医学あり、世界に投げた波紋」

「二十五年の荊の道、人類の恩人として永久不滅に輝く助川博士」

昭和十六年六月十八日　いはらき　「研究十七年間、天然痘病原体発見、助川博士の大苦心」

昭和十七年二月六日　報知新聞　「鶏卵で天然痘予防、助川氏の研究実を結ぶ」

昭和十七年二月六日　国民新聞　「鶏卵で痘苗培養、世界的な大発見」